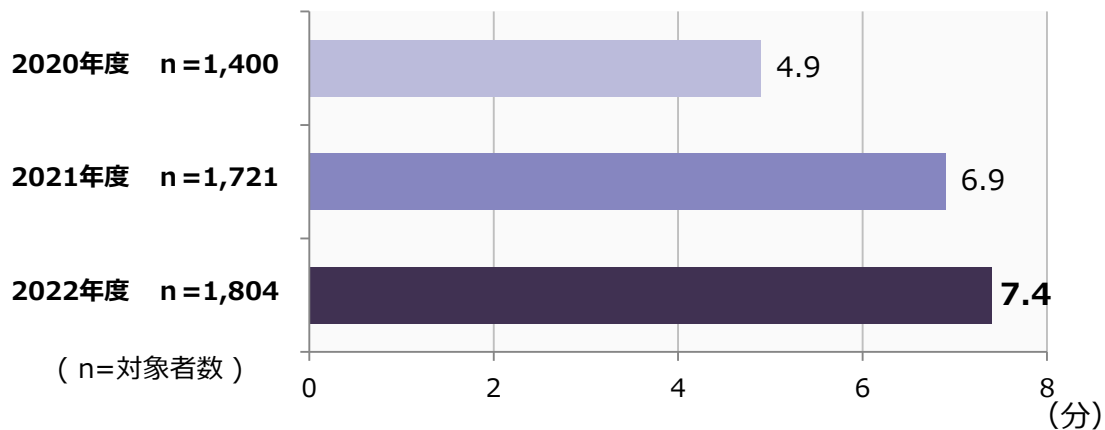


採血支援システム導入後の中央処置室採血待ち時間調査

外来診療において、患者の採血データは不可欠なものであるが、採血行為は患者の苦痛を伴いストレスとなります。またそれに伴う採血待ち時間の超過は、患者にさらなるストレスを生むとともにクレーム対象となることが多いです。

中央検査室において、2015年より採血支援システムを導入したことで、採血管準備や患者確認および検査依頼照合などが自動化されました。それにより患者1人あたりの採血待ち時間短縮につなげることで患者満足度の向上を図ります。



当院値の定義・算出方法

中央処置室到着から採血開始までの平均時間

調査期間：2022年度 10月～11月 平日各曜日3日(計15日間)

解説(コメント)

2015年より中央処置室において採血支援システムを導入し、採血管準備や患者確認および検査依頼照合などが自動化されました。それにより患者1人あたりの中央処置室採血待ち時間の短縮につなげることで患者満足度の向上を図っています。

結果の考察と今後の取り組み

今年度も昨年度と比較して採血待ち時間が延長しました。その要因として術前や入院時スクリーニングの「新型コロナウイルスPCR検査」唾液検体採取および自宅採取検体の提出預かりなどを中央処置室で一括管理していた影響が大きいと思われ、採血や点滴以外の患者対応を余儀なくされた結果となりました。2023年5月より感染法上「新型コロナウイルス感染症」が2類から5類へ移行される事がすでに決定され、それに伴い当院の検査体制も見直される事となっており、中央処置室での業務も軽減される事が予想されます。今後も検査部と看護部との連携を強化し、採血待ち時間の短縮に尽力していきたいと思っております。

文責：検査部技師長

吉永 真人